

平成30年8月28日
船工30第333号

報道各位

「Nor Fishing 展示会」に初めて参加

一般社団法人 日本船用工業会

当会は、自主事業として、8月21日～24日の間、ノルウェー王国トロンハイム市で開催された「Nor Fishing展示会」に海外漁船市場開拓検討WGの会員企業6社と共に初めて参加した。

同展示会は、1960年以来、隔年で開催されている漁業関連技術に関する世界最大規模の展示会であり、今回は船用機器メーカー、設計会社、造船所、漁労機器メーカー等、欧州を中心に21カ国から509の企業が出展し、60か国から約2万人の来場者があった。

当会は、昨年度から、海外市場開拓検討委員会の下に海外漁船市場開拓検討WGを設け、海外の漁船マーケットや関連制度等に関する情報収集と市場開拓に向けた検討を進めている。本年3月に開催された同WGでは、「日本とノルウェーのまき網漁船の設計コンセプトの比較」等について意見交換を行うとともに、海外の漁船や欧州船用製品に関する情報収集と、欧州漁船関係者に対して日本製品を広く周知するため、本展示会に初参加することとした。

当会の展示ブースでは、初参加ながらも、「SUSHI Reception」を開催するなどして日本製船用機器のPRを積極的に行ったところ、ノルウェー産業貿易水産省(Norwegian Ministry of Trade, Industry and Fisheries) HARALD TOM NESVIK大臣をはじめとして、多くの来場者が訪れた。

なお、日本以外では、デンマークのナショナルパビリオンには、数多くの漁船向け機器メーカーや修繕造船所等が出展し、多くの来場者が高い関心を寄せていた。

一方、当会は、同展示会開催の前週に、海外漁船市場開拓検討WGの会員企業6社とともに、オーレスン市にあるLarsnes Mek Verksted AS 造船所を訪問し、同造船所で建造された最新漁船の船内視察や同造船所の担当者と意見交換を行うなど、有意義な現地調査を行った。

今後、当会では、海外漁船市場開拓検討WGにて本事業の報告を行い、今後の活動等に役立てるための意見交換を行うこととしている。

【Nor Fishing開催概要】

日時：8月21日（火）～24日（金）

場所：Klostergata 90 7030 Trondheim, Norway

主催者発表来場者数

8月21日 4,460人（50カ国）

8月22日 6,460人（55カ国）

8月23日 5,904人（59カ国）

8月24日 2,646人（国数について主催者発表なし）

合計 19,470人（60カ国）

※前回2016年 来場者数：約15,000人

HP：<http://www.nor-fishing.no/?lang=en>

【参加企業】

(株)赤阪鐵工所、大洋電機(株)、ダイハツディーゼル(株)、ナカシマプロペラ(株)、
長崎マリンサービス(株)、(株)前川製作所

(当件に関するお問い合わせ)

(一社)日本船用工業会 業務部 石田 TEL:03-3502-2041

Larsnes Mek Verksted AS 訪問

今回視察した漁船（総トン数約 3,000 トンで、最大船員はわずか 9 名。）



Mr. JARLE GUNNARSTEIN CEO に冒頭挨拶を行った北村専務理事



説明を行う海外漁船市場開拓検討 WG 上田座長



Larsnes Mek Verksted AS

CEO JARLE GUNNARSTEIN からのプレゼンの様子



中央 CEO Mr. JARLE GUNNARSTEIN

左手前3番目 Department Manager Mr. ERLING MOLVIK

ブリッジの様様



機関室の様子（自動化が進んでいる。）



居住区の様子

（暖炉がある休息スペースや会議室等があり、9名の居住区としてはとても広い。）



Nor Fishing 2018 の様子



中央：ノルウェー産業貿易水産省 HARALD TOM NESVI 大臣
(Norwegian Ministry of Trade, Industry and Fisheries)
右：海外漁船市場開拓検討WG 上田座長（日本無線㈱）
左：北村専務理事

展示会初日に行われた JRC スカンジナビアブースのセレモニーの様子



左から3番目：日清紡ホールディングス㈱ 河田代表取締役社長
左から4番目：在オスロ日本国大使館 伊藤一等書記官
右から3番目：北村専務理事

JSMEA ブースの様子



オープニングセレモニーの様子



主催者レセプションの様子（参加者が多く、席は完売となった。）

